

○ 令和7年度普及指導活動の外部評価結果公表資料

項目	内容等	
趣旨	<p>効果的・効率的に普及指導活動を実施するためには、幅広い視点から客観的な評価を受け、得られた評価により、普及指導計画の検証及び改善を図ることが重要である。</p> <p>このため、先進的な農業者や関係機関、学識経験者等を含めた委員による外部評価を行い、評価結果を公表するとともに、次年度以降の普及指導計画に反映するものとする。</p>	
評価方法	<p>普及指導活動の実施状況(普及指導計画の策定、普及指導活動の経過及び実績、成果目標の達成状況等)を評価する。</p>	
実施時期	<p>令和8年3月17日(火)13:30~16:30</p>	
実施場所	<p>HOTEL グランデはがくれ(佐賀市天神2丁目1-36)</p>	
外部評価委員	<p>7名(先進的農業者、若手農業者、女性農業者、農業関係団体、学識経験者、民間企業)</p>	
評価課題数	<p>6課題(各農業振興センター1課題×全6か所)</p>	
<p>主な意見・評価</p>	<p>佐城農業振興センター</p>	<p>終了課題</p> <p>○樹園地継承を核とした新規就農者の確保・育成の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兼業農家に推進するという点は斬新であった。 ・地域おこし協力隊の所得と独立後の所得のギャップが懸念される。 ・参入に重点がおかれているが本当にそれで良いのか。 ・少しずつ担い手が増えているので、今後に期待したい。 ・大和は、過去の課題から先行して取り組まれていて、今回の発表でも、非常に参考になる普及活動の事例発表であった。 ・このような「仕組みづくり」を実践する活動は、今回の実績書にあるように、広範囲な活動となっていて大変忙しかったのではないかと思います。計画書の重点対象や、成果目標の設定の根拠など、計画書を立てる段階で、しっかりとした検討が必要であったと思う。 ・樹園地の継承と新規就農をうまくつなげている取組であると思う。大和地区、多久地区、それぞれの地区の特色を踏まえたものであり大変良かった。 ・果樹農家の新規就農時に直面する「未収益期間」という大きな問題について、優良園地をリスト化し、事業承継に結び付ける事で解決に導き、3年間で8名が就農できた点は非常に評価できる。産地が一体となった取組は参考としたい。 <p>(</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及と地元組織、JA、市町とのアプローチの状況について説明が欲しかった。新規者の経営状況も成果。 ・未収益期間などの課題がある果樹の担い手確保の仕組みづくりを構築できている。 ・活動の範囲が少し広いような印象(重点化が必要) ・多久地域における地域おこし協力隊を活用した受け入れ体制づくりは県内でも見られない例である。 ・産地との対話を重ねられている。 <p>)</p>
	<p>三神農業振興センター</p>	<p>終了課題</p> <p>○露地野菜における規模拡大志向農家の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他地区・農家への波及とまで広がっていない。課題とそれについての活動が資料から分かりにくい。具体的に課題とその整理が必要。 ・儲かったらもっと広がるのでは。猛暑の中で育苗をするのが課題になると考える。 ・内容は良いがもっと絞る。カンショかブロッコリーかどちらかで良いと思う。 ・異なる個別経営体、組織経営体への露地野菜推進の姿は良く理解出来た。面積を見れば、計画どおりには進まなかったところもあったと思うが、各経営体としてみれば、振興センターの活動が経営改善の一助となり満足度も高まっているのではないと思われる。 ・各事例の中では露地野菜の導入拡大を図った中で、経営改善の効果が示されていないのが残念であった。また、技術支援が経営改善に結びついた農家の声を反映させればもっと分かりやすかったと思う。 ・普及計画書の課題名と成果目標(栽培面積、育成数)がリンクしていないのではないかは気になった。計画書の対象をもっとシンプルにしても良かった。 ・米麦・野菜の2~3毛作にする取組み、大変良いものであると感じた。きめ細かい内容でサポートが実施されている。 ・土地利用型に収益性の高い野菜やイモ類を定着させることで農業経営の安定化を図り、さらに規模拡大に導いた点は評価でき、県内の農家や法人に普及させたい。野菜等の栽培には労働力も必要であることから、販売面の努力とあわせ労働力の確保も必要である。 <p>(</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題点の抽出と課題会決定、経過、対象と品目の選定のやり方。後の活動はルーチン?経営改善、農家の声。 ・888運動の重点推進方向である露地野菜の生産拡大に貢献している。 ・アスパラガス農家にブロッコリー栽培の複合経営を提案するなど他地区にない独自性がある。 <p>)</p>

項目	内容等
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">東松浦農業振興及センター</p>	<p>終了課題</p> <p>○担い手育成支援・飼養管理改善等による肥育素牛産地の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の動きが資料に明示され良かった。畜産でこの課題はとても難しく小さな事の積み上げが大切だと思う。 ・いろはファームを利用した新規就農者が増えることを期待。 ・新規担い手のセミナーの拡大が欲しい。着目は良いので波及を続けて欲しい。 ・発表では、3年間で2名が就農、若手農家のうちの重点農家の2戸が、分娩間隔が改善、中核農家では規模拡大が出来、指導の結果、一定の成果があがりましたという報告であった。確かに普及活動をしているのだから足跡は出来るはず。しかし、よくよく見ると、担い手の育成数として掲げた育成数の根拠は何なのか（一戸当たりの規模が1.5倍になったとしても、30年継承でみると年間3名必要になる。） ・今後、普及計画の樹立については、課題名、重点対象、成果目標と活動内容まで有機的な連動となるよう、しっかり検討してほしい。 ・担い手のステージ別に取り組を進めている点が具体的でよい。 ・畜産農家を「新規担い手」「若手」「中核」「高齢」の4区分に分けて、それぞれに最適なアプローチを行うことで、すべての区分で成果が出たことは非常に評価できる。その中でもJAで「キャトルステーション」の整備を行っていた事が功を奏した（CSをうまく活用した）。 <p>〔農業振興センターの役割が少しわかりにくかった。役割分担では、どう位置付けているのか。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろはファームによる担い手確保の実績が出ていないことの分析を深掘してほしい。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">西松浦農業改良普及センター</p>	<p>終了課題</p> <p>○地域を牽引するモデル農業経営体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても多額の経費が投入された事業で驚いた。今後、どう波及させるのかきちんと整理すべき。 ・稼ぐ農業者が増えるよう活動して欲しいと思う。 ・地域への波及があったのか疑問。 ・県プロジェクト課題の最終年として、収益の伸びが5戸平均で50%以上も伸びており、トータル的な支援活動が実を結んでいることが理解出来た。 ・活動は、各農家がそれぞれ異なる経営課題であり、多岐に亘って取り組まれ大変であったと思うが、そのことで発表にあつたように、職員自体のスキルアップにもつながったのであれば、それも評価したい。 一方、計画書を見ると、成果目標の設定に関しては、もう少し工夫をしていれば、第三者にもより理解されやすかったと思う。 ・経営センスがこれからの農業に不可欠と言うことが良く分かった。 ・継続的に対象経営体の決算書を把握するところまで踏み込めたことは大変良い取組。成果の波及としての地区成果報告会も良い取組だと思う。 ・モデル的経営体の育成に取り組む、収益性が157%に改善されたという結果は、非常に素晴らしい成果である。継続的な伴走支援と専門家派遣が功を奏したと思われるので、JAさがでも参考にさせていただきたい。 <p>〔小技集の利活用は？〕</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">杵島農業振興及センター</p>	<p>継続課題</p> <p>○生産技術と産地基盤強化による白石タマネギの復興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートはいろんな対象で部会員なのかが不明。ややJAの役割が大きいような感じがした。地区推進会議の波及が理解できなかった。 ・農地集積に課題が残ると思うが、今後も活動をして欲しい。 ・波及性があるのか。60戸から何戸まで増やせるのか。5haは現実的か。 ・前年の労力補充の活動報告続く、もう一つの柱である大規模農家の育成に特化した発表。生産現場の実態調査が非常に良く出来ており感心した。1150ha作付面積の回復のため、戸数減少の中で5haの大規模農家を育成するという非常に分かりやすい活動発表であった。 ・このように、従来型の個別生産体制では産地の維持が出来ないというなかで、実態調査によって深掘りして課題を抽出し、労力補充、機械化、省力技術など生産システムにメスを入れた大規模農家の育成に向けた取り組みは、タマネギ生産責任産地として、非常に評価出来る活動。 ・論旨が明確で成果の有効性も高い。やはり規模拡大には機械化を進めるべき。 ・玉ねぎの収穫作業については、根葉切りとコンテナ運搬が非常に大変な作業である。農作業請負会社の利用等で労働力の確保は可能であるが、規模拡大のためには鉄コン+ピッカーによる機械化が必要である。「振興協議会」の設立でJA・町・県が一体となり「10haを目指す！」機運が高まった。 <p>〔産地の現状と目標、課題を正確に捉えている。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道視察から帰ってきてからの熱量を冷まさないような働きかけを行って規模拡大につなげている。 ・気候変動に対応した栽培技術研修会を開催するなど、情勢の変化に柔軟に対応している。

主な意見・評価

項目		内容等
	終了 課題	<p>○稼げるいちご経営で新規者確保および産地活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術的なところで何が原因なのか理解できているのか。 ・トレーナーとの関係が大切になると思う。また、後継者が増えないのは他にも理由があると思う。 ・株冷については分かったが、猛暑対策はそれだけなのか。株冷の評価、収量はどうだったのか。 ・計画書の活動内容に沿って活動を実践されている様子は分かった。また、そのことで、年平均 1 名の就農者の実績も得られている。しかし、実際は目標からしても、まだ足りていない。引き続き頑張ってもらいたい。 ・計画書を見せてもらうと、現状及び問題点が、作付面積の減少、若い後継者が育っていない、というただの現象の推移に止まっているのが気になった。 ・藤津だけでなく県全体のいちごの構造的な問題で、あくまで仮説の域を出ないが、イチゴは育苗も含めると 15 ヶ月の作物。今の若い人から見ると「ワークライフバランス」から敬遠されていないかと思う。育苗を分業化し、農業を始めたい若者に「夏は 2 ヶ月マリンスポーツ三味のいちご栽培は如何ですか」と PR が出来るかどうかと思う。(魅力を感じる人が出てくるのではないかな。) そのための仕組み作りへの挑戦が、振興センターで必要ではないかと聞きながら思ったところ。 ・問題意識と成果との関係が分かりやすかった。 ・毎月の担当者会の開催をはじめ、問題解決に向けたきめ細かいフォローがなされている。特にトレーナー交流会は良い取組だと思った。 ・高単価時期の低収や農家の減少等の課題を部会内で協議していなかった状態から、「紙ポット」や「株冷」など新技術の普及を含め、部会を通して産地一体で取り組む機運が高まった。 <p>(自走支援の考え方、移し方 (部会と合意?)、株冷拡大の対応は?)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を2つに絞って、重点的な取組を行っている。 ・振興センターからの呼びかけで、県内のミニ TF にも声をかけて、独自にトレーナー研修会を開催するなどの取組を行っている。
	対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・普及指導計画の策定に当たっては、現状分析を十分にを行い、問題点等の整理をした上で課題を設定し、課題ごとの到達目標やその目標達成に向けた活動内容・方法等を盛り込み、より明確化するとともに、今回の意見や助言等を踏まえ、より効果的で効率的な普及活動となるように努めたい。 ・普及指導活動の成果については、関係機関・団体等と連携し、民間の活力等も活用しながら広く波及するよう努めたい。

※括弧内は内部評価委員の結果